

くまもと経済

C 表紙の人
Cover Story

出田 信秀
大熊本証券社長
「組織改革」奏功 3期ぶり黒字に

10 2021
月号
VOL.484



県内大型商業施設 コロナ影響大 来店は3割減
駅ビル隣接高層マンション8割販売
コロナ禍で事業者着目する「ふるさと納税」/クリエイター育成強化

特集

マンガ・アニメによる新たな観光・経済活動の創造と地域の再生・振興、元気づくり」の3本柱を軸に協議会の活動を広げていく趣旨を説明。観光資源として次世代につなぐため、漫画、アニメのアーカイブ化や産業化、漫画、アニメを活用した地域課題の解決などにも取り組むという。

協議会は10月24日に発足する。「マンガ県くまもと」をPRするシンポジウムも開催予定で今後も参加団体を募っていくという。

美術学部を再編 デジタル面を強化

職業の選択肢拡充へ 崇城大学

崇城大学(熊本市西区池田4丁目、中山峰男学長)は芸術学部的美術学科を再編し、2022年度からアート・イラストレーションと3Dアートの2コースを新設する。美術の基礎を学習しながらデジタルで表現するスキルやメディア展開を学べるのが特徴。ア

『ONE PEACE (ワンピース)』(尾田栄一郎さん)や『夏目友人帳』(緑川ゆきさん)など、県内出身の漫画家や、舞台モデルとなる漫画、アニメは多い。県内では民間、公共団体問わず、漫画、アニメとのコラボレーシ

ョンや地域づくりが各地で取り組まれてきた。協議会発足で情報共有の場を設けることで、熊本が持つ漫画、アニメのポテンシャルを最大限引き出し、地域づくりの幅を広げ熊本の発展を目指す。

とデジタル両方を扱うことができる人材の育成で学生の職業選択の幅を広げる。デジタル面の強化でゲームやアニメなどのクリエイティブ分野の人材輩出、ブロックチェーン技術「NFT(エヌ・エフ・ティー)」でのアート作品の取引対応、3DCGの技術向上などが期

待され、「3年が限界」と言われるクリエイター寿命の延伸も目指す。

芸術学部は美術学科とデザイン学科の2学科で編成。美術学科の再編にあたり、彫刻、芸術文化、視覚芸術の3コースをアート・イラストレーションと3Dアートの2コースに改める。既存の日本画と洋画は継続し、22年から4コースを展開する。

3Dアートでは、粘土と3DCGを用いてハイブリッドに立体造形を学習する。アート・イラストレーションでは、日本画、洋画に続く第三の平面表現としてデジタルで絵を描く手法も学べるようになる。アート・イラストレーション担当の柳田也寿志助教はコースの学びについて「描く力」を身に付け、絵画的な基礎造形力を基盤にしたイラストレーション表現を追求する。一つの作品を、時間をかけて制作するの

が特徴で、「作品」を作るための学びを実践していく。デジタル技術を導入することで、フライングアートだけでなく、コマースリアルアート(商業美術)への展開も期待できる」と話す。

世界のアート市場が約7兆円に対し、日本は2270億円で3・2%。シェア率44%と最も高い米国の3兆800億円と比較すると13倍以上の差がある(日本のア

ート産業に関する市場調査2020)(一社)アート東京(一社)芸術と創造調べ)。それに合わせ、「単価が高額でネームバリューがないとなかなか購入に結び付かない現状にある」という要因でアートと職業が結

び付かない実情もあるという。

一方、ポップカルチャーやデジタルアートは徐々に需要が高まりつつある。「デジタル面の強化で学生が将来好きなことをして生活ができる環境を整えたい。今後はポップカルチャーとの結びつきも強化し、産学連携も視野に地域活性化にも貢献していきたい」と勝野眞言芸術学部学部長は展望を語った。



▲崇城大学の芸術学部美術学科の勝野眞言学部長(右)と柳田也寿志助教

大学のDX化実現へ邁進 データやAI活用できる人材を育成

崇城大学

中山 峰男
学長

2025年以降、大学入学共通テストの出題科目に情報科学が正式導入されることを受け、崇城大学(熊本市西区池田4丁目、中山峰男学長)では大学運営及び教育の高度化に向け動き始めた。

中山峰男学長は「Edtechが進み、授業のあり方や、大学の教育システムそのものについても大胆な改革が必要だと考えています。大学全体の組織運営のあり方も含め、2025年を目途に大学のDX化を実現できるようなDX推進室を設置し、現在ロードマップづくりをすすめています。システム開発業者との連携を図りながら、先端的なテクノロジー活用のための教育環境の実現を目指します」とDX化への意気込みを語る。

データサイエンス教育プログラムの認定校に

DX化に向けた積極的な取り組みをみせる同大学では、情報教育で学んだ技術を普段の学生生活でも活用してもらおうと、2012年度からBYOD(Bring Your Own Device…私物デバイスの持ち込み利用)を採用。授業料を引き下げ、学生本人の私物としてのパソコン購入を義務付けした。「全学部全学科の学生が、情報技術を活用できる人材に」という目標の基身に付けるべきスキルを学科ごとに決め、実践的な教育に力を注ぐ。さらに高度な情報リテラシー教育の一環として同大学では、データサイエンス教育を実施。データサイエンスやAIによる新たな価値を作り出すための基礎を身につけ、データやAIを活用して社会に貢献できる人材育成を目指す。同大学でのそうした試みが認められ、今年8月文科省が推奨する「数理・

データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の認定校に選ばれた。「量子コンピュータによる気象予報や衛星を使ったGPSシステムの活用など、データサイエンスは既に社会に大きな変革を生み出しています。そうしたあらたなテクノロジーに対応できる人材育成を目指し、データサイエンス授業の一層の充実を図りたい」としている。

令和4年度から学科やコースを再編成

令和4年度から応用微生物工学科と応用生命科学科を一本化した新学科「生命生命学科」が、芸術学部美術学科にデジタル技術を活用できるアートクリエイターの育成を目的に「3Dアートコース」「アート・イラストレーションコース」の2コースがスタートする。

「生物生命学科」では、旧2学科それぞれの研究シーズを組み合わせたよりスケ

ールの大きな研究と、専門知識と技術を持つスペシャリストを、美術学科の2コースでは、芸術的な基礎表現手法を学び、人の心に訴えるデジタルアート作品のクリエイター育成を目指す。中山学長は「デジタル技術の高度化により、デジタルアートの世界はよりクオリティの高い表現が可能になりました。芸術的な表現手法を身に付け、デジタルの表現技術にも長けたクリエイターが活躍できる場が今後広がっていくと期待しています」と語った。



▲美術学科に新コース誕生

挑戦者求む。

優勝金50万円
優賞金

崇城大学ビジコン アイデア募集

応募締切:2021年10月20日(水)

開催日:2021年12月11日(土)

対象:高校生・大学生

第7回 崇城大学ビジネスプランコンテスト事務局

エントリー
はこちら

 崇城大学
SOJO UNIVERSITY

熊本県

※本コンテストは熊本県の「令和3年度熊本県オープンビジネスコンペティション」を担います。

「女性のチャレンジ賞」を受賞

崇城大学大学院生で農業資材研究開発・(株)Ci amoの代表を務める、古賀碧さん（応用生命科学専攻博士後期課程3年）は6月29日、内閣府男女共同参画局の表彰制度「令和3年度女性のチャレンジ賞」を受賞した。同賞は起業、NPO法人を対象に、女性個人、女性団体・グループを支援し、男女共同参画社会実現の機運を高めることを目的とした表彰制度。今年度は個人5人と1団体が受賞した。

古賀碧さんは、崇城大学の起業ファンドから出資を受け、2018年、(株)Ci amoを設立。女性起業家として、農業や医薬品、環境問題の解決に役立つとされている「光合成細菌」研究・開発及び販売に取り組み、国が主催するビジネスプランコンテストで数々の受賞歴を持つ。